

平成 30 年度

下流域版(大阪府守口市域及び大阪市域) 平成 30 年 8 月 27 日

第 1 回 淀川河川公園 下流域地域協議会 会議録

■開催概要

開催日時：平成 30 年 8 月 27 日 (月) 14:00～16:00

場 所：守口・門真商工会議所大集会室 C

議事次第

- 1、開 会
- 2、出席者紹介
- 3、議 事
- 4、今後の予定
- 5、閉 会

【審議事項】

(1) 守口サービスセンター再整備事業について

【報告事項】

- (1) 大阪府北部地震・平成 30 年 7 月豪雨への対応について
- (2) 公園事業の取り組み状況について
(淀川アーバンキャンプ、淀川左岸線(2期)工事)

配布資料(説明及び審議資料)

- ・議事次第
- ・出席者名簿
- ・配席図
- ・【資料 1】 守口サービスセンター再整備事業について
- ・【資料 1 別冊】 試行プログラム案
- ・【資料 2】 大阪北部地震・平成 30 年 7 月豪雨への対応について
- ・【資料 3】 公園事業の取り組み状況について

1. 審議事項(1)について

- ・事務局より、審議事項の資料 1 について説明後、質疑応答

[学識経験者]

- ・淀川河川事務所としてはこの内容でプログラムの試行を行いたいということによいか。

[公園管理者]

- ・今用意している内容に関しては実施したいと考えている。ただし、昨年の協議会でも検討したように、自然的な利用が弱いように感じている。

[学識経験者]

- ・河川敷であるという制約条件と堤外地の施設であるという点が混ざっている。守口地区周辺は自然環境が貧弱である。ここで自然をウリにすることは難しいのではないか。
- ・アンケートの質問項目は、多くの人に利用してもらうことを前提としているが、そもそもここに人を呼び込むことがいいことなのか。

[地域住民代表]

- ・もっと広く地区を見るべきではないか。「守口地区」だけに注目されていないか。各地区には、スポーツゾーンやバーベキュー広場があるなど特色があるが、これらの地区を広く捉えて議論する必要があるのではないか。
- ・学校のビオトープもよいが、巨大なビオトープともいえる河川敷の魅力はより活用すべきで、その部分が見落とされていないか。
- ・加えて学校との連携がないように思われるが、それはよくない。使ってもらうためには、例えば、もう少ストイレなどの施設が設置されるだけでも活用しやすくなる。他にも地下鉄などのアクセスといった観点もあり、より広域的に考えることと、淀川河川事務所と教育委員会・学校との連携が重要ではないか。
- ・学校側は危険性といった点で避けがちであるが、逆に言うるとどのようなプログラム、人材、など何が揃えば利用してもらえるのかを知る必要がある。

[利用団体代表]

- ・やはり守口地区だけに注目するだけではなく、交通などの利便性という面からもっと広く人が来ることを想定すべき。また、「遊び」の発信と「学び」の発信をはっきりと二分化し、守口だけでなく周囲の教育委員会や各学校に発信する必要があるのではないか。
- ・すべての地域に向けて守口のよさをきちんと発信することで、はじめて守口地区が盛り上がるのではないか。目新しさだけに注目してしまうと、目的とずれてしまうのではないか。

[地域住民代表]

- ・今回の協議会も整備について検討する場であると理解しているが、レンタサイクルの実施に対してその走行ルートがわからないなど、詳細が不明なものが多い。実施するものに関しては早急に詳細を定め、とにかく実施にこぎつけてより魅力的な空間とできるようにしてほしい。

[地域住民代表]

- ・資料の 2 頁に「検討プラットフォーム」とあるが、ここに教育関係が入っていない。教育関係者との連携はしっかりと行ってほしい。

[学識経験者]

- ・各所の利用状況はどうか。既存施設などの状況が知りたい。例えば、鳥飼、背割堤など。

[公園管理者]

- ・挙げていただいた鳥飼と背割堤ではそれぞれ状況が異なるが、鳥飼はアクセスが悪いことがあり、背割堤の方が賑わっている。
- ・川辺に近いとやはり人が立ち寄りやすいようであり、これが賑わいの理由であると考え。この状況も整備方針の中で組み入れていきたい。

[学識経験者]

- ・当初は既存のもの守口サービスセンターの関係を考えて検討していたが、今は多少おざなりになっていないか。今日話題に出ている中でも、サービスセンターの役割は全体の中でどういった位置付けにするのかは改めて議論すべきではないか。そうでなければ全体の議論もできない。
- ・副会長からもあったように、アンケート内容も同様に、そういった部分も含めて尋ねるためにも「建屋に対する評価」と「空間整備に対する評価」はきちんと切り離して組み立てるべきではないか。
- ・今のままでは建物のストック資本をどう利用するか、空間整備にどう反映するのか、といった部分が抜けており、個々の独立した使い方のフローばかりになっているように思われる。
- ・ストック形成の考え方が抜けており、危うさを感じる。建屋、堤外地など、それぞれ分けて考えるべきではないか。

[学識経験者]

- ・これまでは点の議論となっている。全体の流れの議論ができていないのではないか。

[学識経験者]

- ・話を進めるために、まずプログラムの試行を実施してはどうか。
- ・ただし、検証の仕方、評価方法がしっかりしていないと意味がない。今回の議会をふまえて練り直してほしい。
- ・サービスセンター前の空間が本当にこれでいいのか、どのような環境を望んでいるのか。参加するプログラムが1つか複数かによっても評価が変わる可能性があるため、そういった点もあとから検証できるように配慮されたアンケートにすべきである。

[地域住民代表]

- ・基本的に守口地域の人間を主体としたプラットフォームであり、全体構造となっておらず、部分的な構造の話し合いとなっている。
- ・結果として、協議会に持ち込んで可否をみているだけになってしまっている。全体を俯瞰した話し合いをできるようにすべきではないか。

[地方自治体]

- ・プログラムの試行の内容自体は、採算性など検討すべき点はあるかもしれないが、整備全体のフローからは独立して扱える部分であるためこの内容で問題ないと考え。とにかく、まずは実施してはどうか。

[学識経験者]

- ・建屋の機能については「淀川全体で考えて、その下流域にある守口サービスセンターにどういった機能が必要か」、というような質問項目が必要である。
- ・人を呼ぶためには活動拠点は必要不可欠であるが、その機能は従来までの管理機能と違うのではないか。
- ・資料をみると活用メニューや、どうすれば経済的に成り立つのか、といった付加機能と呼んでいる機能の議論が目立ってばかりである。管理機能として何が必要とされているのかも問うべきである。単なるレジャー機能だけではなく、学習機能を持った自然とのふれあい機能といったプログラムを充実させてほしい。
- ・自然系と飲食機能は両立するのか。バーベキューがベストなのか、実際はピクニックができるような

マルシェ的な機能がよいのか、といった点も聞いていくべきである。

[公園管理者]

- ・実際に、議論が点になっているようには感じている。どうすればより活用してもらえるか、学校など教育機関に聞き取りたいと考えている。

[学識経験者]

- ・この河川敷で、小学校 4, 5 年生くらいで観察会等を定期的に学校行事的に受け入れている地点はあるか。

[公園管理者]

- ・今のところはない

[学識経験者]

- ・河川の魅力を知った子どもたちが自分たちだけで河川へ行くことを懸念する動きもあるが、営業をして年間何十校も連れてきている公園もあるので、そういった活動も行っていくべきではないか。(堺自然ふれあいの森。市営。市の校長会・教頭会へ営業している)

[学識経験者]

- ・そもそも水難事故は大人の方が多く遭遇しており、むしろ子どもたちに河川がどういった場所か伝えた方がよいのではないか。
- ・教育機関と連携し、河川のことを教えるような取り組みを目指すべきである。そのための施設としては、トイレや屋根など最低限のものがあることがとにかく重要となる。
- ・ただしアンケートでは上手く聞かなければあれこれ要求されてしまう。

[学識経験者]

- ・大量のイス、机などの設備がなくとも、子どもたちが待機できるような施設であればよいのではないか。

[利用団体代表]

- ・干潟で学習イベントをした際、子どもたちだけではなく、子育て世代の大人も積極的に学んでいる姿が見られた。そういったイベントを実施すべきと考える。
- ・広報に力を入れ積極的にアナウンスをしてくべき。このような環境は珍しいのでアピールしてほしい。
- ・たとえば 10 月のプログラムの試行でプレイベント的に、こういった学習メニューを考えています、というような広報はどうか。学校現場も外に出ることを禁止する傾向があり、外に出る機会が失われているからこそ、広報が重要では。

[学識経験者]

- ・資料 20 頁の内容(アンケートの実施方針)をよく検討し直す必要がある。
- ・ここでは、利活用プログラムでの体験等を通して意見をいただく、といった旨が記載されているが、そういうことではない。利活用プログラムの運用によって様々な被験者を獲得できる、ということを活かして本質論を聞くことを念頭に置いて考えてほしい。
- ・サービスセンターに、淀川河川敷公園全体を支えていくにあたってどのような施設機能がほしいか、という本質論や、河川敷公園のあり方を考えたときに、今のグラウンド型がよいのか、自然型に変化させていくのか、といった問に加えて、利活用プログラムへの感想を聞く、というように組み立て直してほしい。

- ・利活用プログラム参加者だけでなく、周辺の全教育機関にアンケートするくらいの覚悟を。
- ・河川で遊ばせたくない関係者は本当に多いが、その状況をどのようにクリアしていくのか、そのためにも危険性を学ぶことも含め「学習・教育」の側面も検討していくべき

[学識経験者]

- ・はじめはそのような教育の話からスタートしたように記憶しているが、最近は少し営業的な側面に偏っていないか。

[公園管理者]

- ・我々の問題意識として、以前守口地区の使い方はなんだ？というときに、スポーツ広場としての使い方くらいしかなかった。サービスセンターはそれに付随するものになっていた。
- ・しかし、H20 に協議会によって公園をさまざまな活用ができる場所にすべきである、という話になってきた。一步踏み出したことをする、といった実証のなかで試行プログラムを考えてきたが、ピンポイントで考えすぎていた。
- ・おっしゃるとおり、公園全体としてどうか？という点を考えて検討し直していきたい。

[地域住民代表]

- ・サービスセンター再整備の目的はどうなったのか、また一から考えるのか。

[公園管理者]

- ・そういったつもりはない

[地域住民代表]

- ・現状更地のままで、利用をどうするのかといった意見がいつ出てもおかしくない。どういった目的で整備するのかをはっきり示さなければならないのでは

[公園管理者]

- ・整備方針について、一から考え直すというわけではなく、現状の積み重ねをもとに、ピンポイントで見すぎていた点を修正しながら検討していきたいと考えている。
- ・たとえば、これから行っていく試行プログラム等の検討を公園全体の中でどうとらえるかを追加していきたい。

[学識経験者]

- ・国土交通省として、利活用プログラムのアンケートの目的をはっきりさせるべきである。
- ・何年内にサービスセンターを整備したいのか、その基本的機能・付加的機能をしっかりと検討し、きちんとスケジュールを提示した上でプログラムを実施すべき。
- ・アンケートが利活用プログラムのみの評価で終わるのならば、協議会で議論する意味がないのではないか。将来有効な検討を。

[学識経験者]

- ・小学生を対象として設定するのであれば、まず、教育関係者への指導プログラムが必要ではないか。

[地域住民代表]

- ・余談だが、我々が子供の頃はプールが少なく川で遊んでいた。もちろん少なからず危険もあるが、親水と治水の兼ね合いを検討してほしい。

[公園管理者]

- ・現在、点野地区での事例があり、そちらで教育関係者などへの聞き取りをする予定がある。その結果

をこちらでも活かしたいと考えている。

[学識経験者]

- ・田舎の河川では護岸がはっきりわからないようなところすらある。護岸をきちんと整備していない場所はいくらかもある。

[学識経験者]

- ・その点は公園の本質論、あるいは、国土交通省が行う都市公園の本質といえる。自然公園的な人が手をかけていないエリアを公園と呼ぶのか？呼ばないのか？といった点である。
- ・ヨシ原地区（野草地区）も含めてオープンしつつ、かつ、様々な人々が利用できるプログラムをどうやって作っていくのか。これは、敷居の高いことであるが、国が整備する公園としての本質論である。

2. 報告事項（1）について

- ・事務局より、報告事項の資料2について説明後、質疑応答

[地域住民代表]

- ・7月4日の豪雨で32地区が閉鎖とのことだが、守口地区はどうなっているか。

[公園管理者]

- ・守口地区は閉鎖していない。

[学識経験者、地域住民代表]

- ・冠水したのはどの地区か。

[公園管理者]

- ・確認する。

[学識経験者]

- ・年に何度も冠水するのが常態化しているのであれば、それを踏まえた整備を検討していかなければならないのではないかと。国としてそういったことを考える時期ではないかと。

[学識経験者]

- ・資料中の写真を見ると、流出ゴミに発泡スチロールなどのゴミが少なく、清掃活動の成果がでていように思われる。

3. 審議事項（2）について

- ・事務局より、審議事項の資料3について説明後、質疑応答

[地域住民代表]

- ・天満橋の給水管取り除き工事が遅れており、護岸への影響を住民が不安に感じている。早急に行っていただきたい。

[公園管理者]

- ・担当に伝える。

[学識経験者]

- ・「機能が従前と同等となるように」という表記になることはやむを得ないのもわかるが、復旧にあたり、

6年間も閉鎖されるのだからこの際本当に「同等の機能での復旧」でよいか考えるべきである。時代の変化も検討すべきではないか。

[地域住民代表]

- ・桜宮高校が、近場の堤防などで部活動の練習をしていたが使えずに困っていると聞いている。復旧はいつになるのか。

[公園管理者]

- ・遅くなり申し訳ない。引き続き努力する。

以上